



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1930, 14(6): 463-472

ISSUE DATE:

1930-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183840>

RIGHT:

いさうして彼はまづ原始景觀を確立せよ、然る後之を文化景觀にまで變化さした人間の活動に見よ、そこに人文地理學の研究すべき多くの問題があると教へたのである。予は譯者に本書を出版されたことを感謝したいと思ふ。(藤田)

○埴科郡郷土研究第一輯 長野縣埴科郡郷土研究會

北信濃の中心で古墳の優秀なもの、多い埴科郡は地理的にも人文的にも研究すべき題目が多い、そこで同郡の識者は郷土研究會を起して熱心に各種の題目を研究發表することになつて、こゝに其第一輯が世に現はれたのである、本輯には地質、皆神山の山椒魚、以上自然界の記事であり、人文地理としては埴科郡西部の集約農業といふのがある、歴史部では古墳、手打騷動、象山先生の血に繋がる人々、虹雅考といった諸篇がのつてゐる、いづれも面白い讀物であるが非賣品であるのを残念だと思ふ。(F)

○土器石器

八幡一郎著 古今書院發行
定價一圓八十錢

東京帝國大學人類學教室に居られる八幡一郎氏の永い間の研究、人類學雜誌や考古學雜誌にのせられたものを集成して四六版二一五頁の手頃な本が出来た、これをよんで縄紋式土器と其に關係した石器、彌生式土器とそれに關係した石器との區別や分布がわかつて、先史時代の研究に對する著者の用意を知ることが出来る、予は敷石遺跡の新資料や北海道禮文島の石器などの報告を得たことを著書に感謝したい。(藤田)

○樺太森林の飛行機測量 本年七月八日より十月廿八日までの間を以て樺太森林の飛行測量が出来た、廿日間の中

實際に作業の出来るやうな良い天氣はたつた四、五日しかなかった、樺太島内に新しく飛行場をつくり、その根據地から四臺の八八式新偵察機が出た、最初は五十萬町歩を豫定したのであるが、以外に進捗して七十萬町歩の寫眞がとれた、この寫眞測量によつて林相、地形、面積等がわかりやすく計算ができる、これ迄の普通測量に比べて短時日にこの調査が出来たことは何といつても測量界の一大革期であると思はれる。

○京都市内の車

現在京都市にある諸車の数は十一萬八千三百四十臺今から二十五年前には二萬八千五百八十四臺しかなかつた、しかもその間に車は改良された第一は自動車の出現である、京都に初見の自動車は、明治四十年英國製のホツバー(時價五千圓)を市内の某氏が自用に買入れたのに初まる、十四年に二臺となり、大正元年に四臺、同二年に十八臺となり、大正三年の御即位大典の年に四十二臺になつた、それから大に増加し大正八年に百四十九臺、この年に自動車營業組合が百五十名の組合員を以て組織されたと同時に人力車が没落した、大正十四年には市内に圓タクが走り昭和四年には二、三二四臺に増加した、然し本年になつて一、六五

七臺に減じたのは御大典の後の不景氣の結果である。

現在市内の自動車營業者は六二五名、營業用の車一五〇九臺、内同タク八二〇、乗合五六、タクシー一三九、ハイヤー二二四、トラック二五五、靈樞車一、トラクター二、寝臺車二、である、この外に府、市各官衙の無稅車約五五〇臺がある。

同タクはシボレーが先づ大半をしめフオード、ホイツベツド、ボンテアツク、オークランド、ビュイツク、ウイルス、クライスラー、プリムス、ナツシュ等が主なるもの、高級なバツカード、カデラツク、デムラー等八千圓乃至二萬圓といふのもある、リンコロン一萬八千圓、ピアスアロー一萬五千圓といふがシボレーは二千圓から二千六百圓まで、フオードはそれよりも廉くて一、七五〇圓から二三五〇圓である。

自轉車は今日では輸入品の跡をたち東京の宮田、名古屋の岡本、京都の大澤、神戸の日英、大阪の日米商店などでつくられるものであるが、六、七十圓の品がよくうれる、之を東京大阪名古屋に比べて京都の自轉車数は驚くべき多數である即大阪でさへ、自動自轉車、二輪、三輪、合計二六七三臺であるのに、我京都は九一、八七八臺(無稅車は含まず)といふ多數である、之を東京の自轉車數一三七八臺に比べて殆ど九倍する、之に反して自動車は乗用荷用合せて東京は七四五〇臺なるに、京都は一五九七臺即五分一に過ぎない。しかしそれでも人口百萬を誇る名古屋の七九七臺よりは遙に多い。

凡そかうした現象は何をかたるのであらうか、狭い京の町に丁稚小僧の走る自轉車が非常に多いといふことは或程度まで京都の産業組織が、小さい家内工業式に分割されてゐることを語るものではなからうか、京都の道路は平坦であつて、車の損傷が少く、それと同時に東京や大阪のごとく人の混雜する所が全市に分布しないで、比較的狭い場所に限られてゐることや、甚盤割の都市で規格が正しいために、この輕便な車の交通が最も有効に利用されるといふことに原因するかもしれぬ。之を明治三十九年末の一、七九二臺に比して、二十五年の間に殆ど九倍の多數に上り、特に昭和以後何故に激増したかといふことは、正に研究に價する問題であらうと考へる、或は曰くこれは東京や大阪には無鑑札が多いので、實數はもつと多いのだといふが、果してどうであらうか。

つぎに運搬車の方をみると牛車、馬車、大車、小車がある牛車は今日はトラクターに代へられて段々減じた、しかし馬車の方は牛車よりも積載量が多く、速力も速いので大正八年以後順に其數が増加し約九百臺に達してゐる、大車は肩引車であるが、これも貨物自動車に押れてゐるが大、中、小合せて二萬臺が動く、これは大正九年三月末の二萬六千臺に比べて非常な激減である、目下市内に約五十軒の荷車製造業者が昨年春頃から新調車が殆ど無くなつたといふからその大勢が知られる。

最後に憐れを止めたのは人力車である、明治三十九年には六

千九百二十八臺で全盛を誇つた人力營業は段々と車體を改良し、明治四十二年頃から空氣入りゴム輪が出現し、しかし大正八年以後自動車が見られてから漸次減少今日では僅に二百九十二臺になつた、たゞ驛構内の駐車と、ホテルの專屬（これは外人が喜ぶから）と花街方面のもの位しか見られぬ世になつてしまつた、故に今日は製造業者も市内に二ヶ所しかない、新調價格二百五十圓以上二百七八十圓である。

最後に市内各區の諸車分布状態を見ると、下京區の車數は三五、八三八臺で五區中第一位である、これは京都驛、梅小路驛、丹波口、中央卸賣市場及西部及南部に工場が多い關係で、自動車、自轉車、運搬車、いづれも斷然他區を壓倒してゐる、蓋し下京に京都の生命があるのである、次に第二位は上京で三〇、一二〇臺、西陣工業地と二條驛があるからである、つぎに中京が二八、四四二臺こゝは面積も狭いが京の中樞であるから乗用自動車第一位で人力車百十四臺といふ古風さをのこしてゐるのも面白い、其他新しい東山區と左京區はいづれも一二、〇〇〇臺内外にすぎない。（京都商工會議所の報告による）

○日本産の藥用植物

一、當藥 方言クスリグサ、ニガトウヤク、龍膽科、各地の山野に自生する、高さ七、八寸莖はやゝ方形で暗紫色を呈し根は細く分岐し葉は細長で對生し、葉柄がない、秋十月十一月の間白又は紫の花がさく、莖、葉、根共に苦味あり健胃劑

とする開花の時に採取しないときかない、一貫目、生のまゝ四十錢、かげぼし一圓五十錢。

二、龍膽 方言サ、リンダウ、各地の山野に自生する宿根草で、高さ一、二尺葉は卵形、針形、夏の末に碧紫色の花を開く、根は赤褐色で長くのびてゐる、龍膽チンキ、龍膽エキスの製藥原料となる、一貫目約二圓。

三、黃蓮 毛茛科の宿根草で、高さ一尺以内常緑の葉を有し菊葉、三ツ葉、芹葉等數種あり、播種して三年の三月中旬から開花し、五月中旬結實す、兵庫縣では樹林の間に栽培しその面積目下約三十八町歩に達す、解熱、下痢止、健胃劑となる十一月から一月の間に根をとり蔭乾とする、一貫目約七圓。

四、萇岩 ハシリトコロ、方言ヤマナスビ、ヤマホ、ツキ、サハナスビ、キチガヒグサ、オメキグサ、茄科の宿根草で、シールボルト氏がこの草の根莖にアトロピン、ヒョスチアミンを含むことを發見した、この葉を烟草と混ぜてのむと喘息にきくからヤマタバコともいふ、春季莖の高さ一、二尺小枝を分つ、葉は互生し、長卵形花は葉側から花梗によりて下垂し、形吊鐘狀で暗紫色四月下旬から五月中旬に開花する、根はワサビに似てゐるが之を折ると紫色の筋目方が放射狀に走つてゐるから區別される、八月頃から採集してよい、採集して水洗し日光乾燥をする、五貫目の生で一貫目になる、約一圓、長野、埼玉、山梨の山間部で産出し、製藥會社でロートエキス、同丁機、同軟膏などをつくる。

五、オホツツラフジ 防己科の蔓莖植物で山野に自生し、葉は廣卵形にして長柄がある、莖を陰草とし之を刻み煎汁を服すれば神經痛リウマチスにきく、秋季莖を採取し其外皮をタワシにて水洗し、之を細斷し甘草と水とを混じて煎じつめて食間に服用する、宮崎縣西臼杵郡椎葉村が主産地で、同地の年産額三〇、〇〇〇貫に達する。

六、黃檗 キワダ、落葉喬木、葉は奇數羽狀、卵狀又は披針形で、その裏は白い、この木の内皮の黃色部を健胃劑又はダラニスケの原料とする、北海道、岩手、岐阜、長野の各地に産する、粗皮一貫目七十錢各地の年消費高約五萬貫に上る、ダラニスケはこの内皮の煎汁を煮詰めたものである。

七、バクチノキ 常綠喬木で樹皮は平滑である、葉はウハミツサクラの葉に似てゐる、葉を蒸餾裝置に投入して藥用バクチ水をとるバクチ水は杏仁水と同じ効があつて、價は杏仁水の半額である、杏仁水は輸入年額二萬圓、バクチ水は宮崎縣南那珂郡市木村から出て、年額一二、六八〇封度に達した。

八、茯苓 溫暖な地樹齡約三十年生の松林中、四五年前に倒した松の古株の根に多く寄生する菌叢である、其外皮は黒褐色なるも、内部は白い、強壯劑に用ひ、實母散、ふり出しなど甘草と混じて用ひる、八月から三月まで農閑期に茯苓館といふスツキ火の鐵の棒で地中をつきさしてさがす、茯苓掻といふ鋏でこれを掘り起す、生の儘で一貫目二十錢、乾したものの一貫目八十錢。

九、耳五信子 ぬるでの翼葉に寄生したる虫である、染料又は藥用タンニン酸に供し、インキの原料にする、採集して之を乾し虫を殺す、中國四國九州各地から產出し十六貫目三十二圓、一昨年は年産十三萬圓に上つた。

一〇、石松 ヒカゲノカヅラ、方言サルノタスキともいふ、此胞子は約五〇%の脂肪油を含む故に大氣中の濕氣を吸收せず、丸藥の衣に賞用せらるゝ石松子といふものである、從來毎年約一萬圓の輸入があつたが國産品を顧みるものゝないのを遺憾とする。

一一、サフラン 玉葱に似た塊莖より發育し四、五寸の高さになつて淡紫色の花を開く、この時雌蕊の柱頭をとつて陰干とする、仁丹の原料となる、開花は十一月である、山間部の林間に栽培せられる。

○廣島縣の國産コルク

近來婦人用コルク草履を始めリノリウム、冷蔵庫の絕緣、浮輪等の材料としてコルクの利用は年と共に増加し昨年コルク櫛皮の輸入二百十七萬圓、コルク製品三十一萬圓合計二百四十八萬圓に達した、いづれもスペイン葡萄牙及地中海方面からの生産物であるが、我國にて之を代用すべきものはアベマキと稱せらるゝカシの一種である、品質やゝ劣るけれども經濟的に十分利用されるので、その皮の採集は五、六、七の三月の農閑期に行はれる、一人一日の採集功程は約十貫目に達す、値段は十貫目が約三圓であるから皮の買入代金、運賃等を仕拂つても差引一日一圓五

十錢乃至二圓になる。但しこの木の皮は剥いても木は枯れない、數年にして又初の厚い皮ができる、丹波あたりでは皮をとらないで炭にやいてしまつてゐる、廣島縣では本年この皮の生産に従事するものが多かつた、中國から四國へかけて、全國各地に分布してゐる木である、今後はこの木の増殖をはかり、炭にやく迄に皮の採集をはかるやうにしたい。

○土耳其の地名考

歐洲地圖を披いてバルカン半島及其の附近にある諸國の地名を熟視するときは、土耳其語でその地名の意義が表されてゐるものが尠くないことに氣付くであらう。次に記するやうな言葉がその地名中にそのまゝ明記されてゐることが多い。

Dag or Dagh = Mountain, Tepé = Hill
Chai = River, Shehir = City
Göl = Lake, Su = Water, Brook,
Köi = Village, Hissar = Castle
Kale = Fortress, Köprü = Bridge
Binnär = Spring, Tash = Rock,
Tanyk Tash = Lava, Kulá = Tower,

是等を實例を擧げて次に説明しよう。Dag or Dagh は Strania Dagh, Permin Dagh の如く山脈を意味する場合に Arjish Dagh, Göl Dag (Lake mountain) の如く山峰を表はす場合とがある。Tepé は丘陵も低い山を云ふ小さな火山雖などもその中に含まれる。Biz Tepé (Ice Hill), Ai Tepesi (Moon Hill) Kara Tepé (Black Hill) なども

ある。Chai は河川の意、Susurlu Chai, Gediz Chai があり、Su は溪流に當り Kula Si がある。聚落は Köi と云ひ Köros Köi, Azi Köi など呼ばれるものが多く都市は Shehir や Ala Shehia がある。Bogaz Köprüsu は橋を表はすものであらう。(ハラコ)

○參宮急行電氣鐵道

參宮急行電鐵は大和櫻井から初瀬、榛原を過ぎ宇陀川の谿谷を伊賀國名張に出で、伊賀神戸阿保を経由し、青山峠に於て鈴鹿山地を越え、伊勢に出で松阪を経て宇治山田に達する線路である。本線路は櫻井以西大阪上本町に至る大軌電鐵と連絡し、大阪と宇治山田とを結ぶ近畿横斷の電氣鐵道で、全長八十五哩四釐、運轉時間二時間四十分の豫定である。工事は昭和四年四月着工し、櫻井より伊賀神戸までは昭和五年十月に完成、青山までは十一月に完成、宇治山田までは十二月中に開通の筈である。全線中の難工事は青山峠のトンネルで長さ三軒に及ぶ、榛原名張十五哩は複線、名張、伊賀神戸間五哩は單線、工費は一哩に付六十三萬圓の豫算であつて、榛原、宇治山田間五十八哩に於て約三千五百萬圓を要する筈である。工事は大林組、錢高組、松村組森本組等の請負であるが、伊賀神戸から青山東口までは千葉鐵道聯隊の援助を得て軌道敷設を行つて居る。

參宮電鐵の開通によつて近畿東西の交通は劃期的に便利となるべく、大阪、奈良、京都、神戸等と神都宇治山田間は悠々一日の遠足で事足ることとなるのである。南伊賀より宇陀

川谿谷を奈良盆地に通ずる自然路は古代に於てはよく利用され、この谿谷に點在する古墳、其他の遺跡はこれを物語るので、大和朝廷の頃は伊勢路にこの通路を利用したが、萬葉集にも多く載せられて、宇陀野の秋、初瀬川の夕、名張の山などの句が散見する。其の後に於ける政治的中心の變化と交通路の變遷、ことに關西線東海道線は何れも伊賀の北部、近江方面を經由することゝなつて、南伊賀は文化に取り殘された形であつたが、參宮電鐵の開通により、又世に出ることを期待される。(名張高等女學校、上田世志子報)

○支那の新しい縣名

省名	新縣名	舊名	備考
江蘇	啓東	——	一九二八年二月新設
湖南	鎮江	丹徒	一九二九年六月許可
福建	寶興	陽明山	一九三〇年申請
廣東	華安	穆坪土司	一九二八年五月創設
廣西	中山	龍溪縣の一部	一九二五年孫逸仙の記念のため改名
	忻城	忻城土	新設
	雷平	安平太平	一九二八年四月新設
	上金	下雷土司	同
		上龍金龍土司	一九二八年七月

雲南	萬承	萬承土司	一九二九年改名
雙柏	摩 芻	——	一九二九年改名
車里	普里第一區	——	一九二七年改名
五福	同第二區	——	同
佛海	同第三區	——	同
臨江	同第四區	——	同
鎮越	同第五區	——	同
普文	同第六、七區	——	同
六順	同第八區	——	同
江城	猛烈土司	——	同
雙江	緬 寧	——	一九二七年改名
堯山	唐 山	——	一九二八年十月許可
民權	——	——	一九二八年新設
自由	——	——	一九二九年陽附近に新設
平等	——	——	一九二七年新設
博愛	——	——	一九二九年沁陽の半分を改む
平民	——	——	一九二九年二月新定
臨夏	——	——	一九二八年三月許可
臨洮	——	——	同
甘谷	——	——	同
民勤	——	——	同
永登	——	——	同
永吉	——	——	同
吉林	——	——	一九二九年改名

新 疆		黑龍江																						
撫遠	綏遠	延壽	綏賓	鷗浦	佛山	東興	泰康	甘南	雅魯	博克圖	木壘河	河灣	博樂	五化寺	布爾津	布爾根	臨津	臨新	永清	康縣	豫旺	磴口	樂都	青海
綏遠	綏賓	綏賓	綏東								奇策の一部	綏來の一部	特河の一部				撫獎	撫獎	毛目	蓮花城	白馬關	鎮戎	平羅の一部	碾伯
同	同	同															同	同	同	一九二八年新設	一九二八年新設	一九二八年三月改	一九二九年二月改	一九二八年三月

雜報

遼寧	遼寧	新賓	輝北	金川	溝原	額敏	乾德	澤普	麥蓋提	葉爾羌	墨玉	策勒	綏遠	綏遠	集寧	魯北	林東	熱河	遼寧
興京	海龍	興京	柳河の一部	開原の一部	額敏河	額敏河	乾德	阿克薩爾	同前	沙車縣の一部	策勒村	策勒村	平地泉	平地泉	平地泉	同	同	同	同
一九二九年改	同	一九二九年改	同	同	同	同	一九二八年七月創設	巴楚の一部	同	同	一九二九年十一月	一九二九年一月	一九二九年創設	一九二九年創設	一九二九年創設	一九二九年創設	同	同	同
同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設	同創設

○支那の三大築港

支那の海運界では年來の懸案である招商局汽船の復興意の如くならず、長江、沿岸航路共に支那の活躍は不十分であつて、内河航路同收も實行は困難であり、之に反して外國汽船會社は沿岸航路及長江航路に活躍しノウルエト船は南支南洋方面に手をのぼし、本邦船は、大

○支那の三大築港

支那の海運界では年來の懸案である招商局汽船の復興意の如くならず、長江、沿岸航路共に支那船の活躍は不十分であつて、内河航路同收も實行は困難であり、之に反して外國汽船會社は沿岸航路及長江航路に活躍しノウルエー船は南支南洋方面に手をのぼし、本邦船は、大

四九

六九

連汽船が新に船をつくり、上海天津線、上海芝罘線を増し更に大連香港線を計畫し、日清汽船は新造快速船洛陽丸を加へ山下汽船は温州航路、長江航路に於て上海宜昌線を増加し更に大連南支那航路に割込み、又川崎汽船は上海温州、福州線上海天津線、上海漢口線等を増加した、猶天津では港區を萬國橋上流日本租界沿岸迄擴張が許可されたので將來はこゝへ外洋船が通航するやうになるであらう。さうした現状なるにも不拘國民政府は、兼て三大築港の計畫を有しよ、本年から實行しだした。その一は北方連山灣口に於ての胡芦島築港であつて、大連に對抗すべき奉天側の計畫である、本年五月十四日より起工し七月二日張學良參列の上正式に築港開工式を始めた。

第二には故孫文の計畫した東方大港なるものがある、浙江省乍浦(錢塘江北岸の古代貿易港)に外洋船の入るに足る築港を行ひ、上海の繁榮を一部こゝに奪はんとするのである蓋し上海には租界があつて外人の實權下にあるから、これを支那人の手に回收せんとする計畫で現に實測中である、實際から見て上海は揚子江の淤、砂が港の通行を妨げるから、その附近に沙の堆積しない良港が欲しい、故にこれが出来たら上海の控へによからうと思はれる。

第三には孫文の所謂南方大港といふものである。これは香山縣中山港の開港である、香山といふのは、廣東灣の入口にある半島であつて、澳門の北にあたり、人口十萬以上の都會で

ある千九百三十年五月九日國民政府國務會議にて、向ふ六十年間自由港として開放することを議決し、その第一歩として香山縣官衙の港區移轉を實行してゐる、これは本港によつて香港の繁榮を奪はんとする遠大の計である。

勿論時局の不安財政の涸竭でこの三大港が豫定通りには進行しないと思ふけれども、今の支那の南方政府は土木に思ひきつた手腕をしめし、南京でも武昌でも民家を破つて大道をつける。それから地方へ自動車道をつける。政府の發表によると既に二萬七千軒の道路が出来、工事中のもの八千軒、計畫中のもの三萬三千軒に達する勢で、それは中々どうしていかにも迅速に立派にやつてゆくといふ手腕があるから、この三大築港といへども夢ではない、恐らく實現する日が來るであらうと思ふ、しかもこの三者何れも天然の好位地を占めて居るから施設如何によつては將來は有望である、たとへ大連上海、香港の繁榮を直に奪はないとしても、相當の港にはなりうるものと考へられる。

○第五十三回文檢地理科豫備試驗問題

(昭和五年十月)

- 一、山麓面と準平原との關係を説明せよ。
- 二、信濃川流域につきて説述せよ。
- 三、横濱、バンクーバー間の汽船の航路につきて説述せよ。
- 四、政治地理上より首府を論述せよ。
- 五、商業國としての日、英、米三國を比較論述せよ。

六、次の諸項につきて知る所を知らせ。

- イ、アヂス、アベバ (Addis Abeba)
- ロ、プンタ、アレナス (Punta Arenas)
- ハ、キーウエスト (Key west)
- ニ、コラ半島 (Kola) ホ、連山灣 (以上四時間)

○瀬戸内海の區分と其の面積容積及び深度

と空」第十卷第八號所載安井善一氏「瀬戸内海の海洋學的地理要素」によりて瀬戸内海の區分等を摘記すると次の如くである。瀬戸内海は山良、鳴門、關門及び速吸の四海峡で區切られた部分で、大阪灣をも加へたものとする。全體を十個の區域に分けることが出来る。

大阪灣 山良瀬戸及び明石瀬戸で限られた區域、播磨灘 東は明石、鳴門によつて限られた一三四度以東の部分、

備讃瀬戸 一三四度以西一三二度三分及び大飛鳥と三崎とを結ぶ線迄の部分、

備後灘、燧灘 備讃瀬戸の西側から今治近見山の燈臺と朝津の鼻を結ぶ線までの區域、此の内燧灘は小さく且つ類似の點があるから備後灘の中に入れて置く、

藝豫海峽 燧灘境界線から下蒲刈島及び猫ノ瀬戸大隅鼻(伊豫)を結ぶ線迄の部分、

安藝灘 波妻鼻からの東西線と下蒲刈島の西端から南西に向ふ一線とで囲まれた部分、

伊豫灘 關崎、安岐岬燈臺を結ぶ線と上ノ關海峽と來浦の

鼻との線及び安藝灘境界線とで囲まれた部分、

別府灣 安岐岬、關崎の線から西の灣、

周防灘 伊豫灘から關門海峽までの部分、

各區の面積容積及び平均深度は次の如くである。

	面積 km ²	容積 km ³	平均深度 m
大阪灣	1,110.4	4,080	3.7
播磨灘	342.8	867.1	2.5
備讃瀬戸	926.6	3,375	3.6
備後灘燧灘	1,926.4	3,581	1.8
藝豫海峽	333.3	1,688	5.1
安藝灘	576.3	1,077	1.9
廣島灘	1,081.1	1,230	1.1
伊豫灘	346.6	1,263	3.6
別府灣	475.5	1,713	3.6
周防灘	3,100.4	7,633	2.5
瀬戸内海	17,096.9	59,903	3.5

各區中面積及び容積の共に最大なのは伊豫灘で面積に於ては全内海の二〇%四六、容積に於ては全内海の三七%一四を占めて居る。深度に於ても最も大きくて他の區に於ては七〇米以内であるけれども伊豫灘に於ては深度七〇米以上の區域が四〇五平方浬〇五あつて最深は二五〇米に達する。

又由良、鳴門、關門、速吸、明石、來島及び備讃の七海峽及び瀬戸に就いて横斷面積及び横斷面に於ける平均深度を測定した結果によると速吸瀬戸最も大きく横斷面積は一平方浬

一八九八ありて平均深度九〇米一、次は由良海峡で横断面積〇平方軒三一〇八一、平均深度五五米九あるが速吸瀬戸に比べると甚だ小さい。鳴門や早瀬瀬戸に至つては甚しく小さい。それで瀬戸内海の水の大部分は速吸及び由良の二海峡から出入することが明かである。

○地理學團第二回講演會開催 地球學團は東京

地質學會及び日本岩石礦物礦床學會と聯合して昭和六年四月四日(土)同五日(日)の兩日を期し京都帝國大學内に第二回講演會を開催することになった。猶四月六日(月)には奈良地方に見學旅行を行ふ豫定である。學團員にして講演希望の方は演題及び講演所要時間を來る二月二十日までに地球學團に申込むか又は二月末日までに東京帝國大學理學部地質學教室内東京地質學會に申込まれたい。學團員が奮つて各自の研究の成果を發表されんことを期待する。猶開催の時刻、場所等に就いては適當な時に豫告する。

質疑應答

問 支那の新しい省名と省城。

答 舊い制度では十八省と東三省及新疆省を加へて二十二省であつたが、國民黨が天下を取つて、南京を首府としてから、六つの新省が加はつて、二十八省となつた。

一、察哈爾省、一九二八年九月五日中央政治會議で特別區域であつたのを改省、同時に以前直隸(今河北省)の口北道十縣が本省に加はつた、省城張家口。

二、熱河省、これも一九二八年九月五日、一省となる面積三十八萬平方里省城承德(熱河)

三、綏遠省、內蒙古の特別區域で、これも右二省と同時に省とする、舊察哈爾特別區域の中、興和、涼城、丰鎮、陶林の四縣がこの省に入つた、百萬七千方里、省城歸綏(歸化城)

四、西康省、一九一四年六月川邊特別區となり一九二八年九月五日、省となる、面積百三十萬平方里、省城康定(打煎鑪)

五、青海省面積二百五十六萬二千五百平方里、これは今度甘肅省の中から西寧道八縣を加へて改めて西寧省を省城とした

六、寧夏省、一九二八年十月十七日、甘肅の寧夏道をさき、これに額濟納土爾渾特旗及阿拉善額魯特旗を加へ八十一萬平方里の省となる。省城寧夏

七、甘肅省はために狭くなつて縣數六十四となる。

八、河北省、直隸省の新名である、省城北平、一九二八年八月に改まる。

九、遼寧省 奉天の新名で一九二九年四月二十三日に改名した、同時に奉天は瀋陽と改名した。

一〇、江蘇省の南京は首府となつたから、一九二八年七月以後、鎮江が江蘇の省城となつて、丹徒縣を鎮江縣と改名した